

世界平和連帯都市市長会議理事会決議

1987年5月 ハノーバー

異なった国家、大陸に位置するベルリン（ドイツ民主共和国）、コモ、ハノーバー、広島、長崎、ルサカ、ボルゴグラードの各都市の代表として、我々は、広島、長崎両市長の招請に基づき、世界平和連帯都市市長会議理事会に参集した。

我々は、市民の福祉に対し責任のある立場にあり、各国家間の積極的な協力関係と平和的發展を確保することが、いかに重要であるかを知っている。こういった状況においてのみ、世界の都市は発展の機会を与えられる。軍備の開発と増強に向けて、莫大な国家予算が支出され、またそれが増加しつつあることに対し憂慮を覚えるのは、この理由からである。核軍備を増強させることは、平和を保障することではなく、戦争の危険を増大させることであるという市民の憂慮を、我々は真剣に受けとめている。

今世紀において、特に第2次世界大戦において、犠牲となった多くの都市の知識と経験に照らして、我々は、都市の未来と市民の福祉に深い懸念を有する。

原爆投下の最初の犠牲となった広島、長崎両市とともに、そして世界中の170の賛同都市とともに、我々は、軍縮と平和の第一歩として、世界中の核実験停止と、核兵器廃絶を訴える。

都市としての責務と可能性の範囲において、我々は、これらの要請の実現に向けて誓うとともに、特に次のことを行う。

- ・ 都市の市民間の相互理解を目的とし、国際的な協力関係を推進するうえで軍事的障壁と社会体制の違いをこえてイニシアチブをとる。

- ・ 平和教育、平和活動等を主催、支援、推進する。
- ・ 展示会、映像、演劇などを通して、平和、軍縮、軍事的暴力廃止といった課題に取り組む。

核実験停止、核兵器全廃、国際的軍縮といった考えを強調し、これらに国際的規模で協力を得るために、第3回国連軍縮特別総会において、世界平和連帯都市市長会議の代表が、その考えと要望を説明する機会が与えられるよう要請する。

もはや、核兵器の削減を、遅延させることはできない。この理由のもとに、我々は、ソ連のゴルバチョフ書記長の提案を通じて、核軍縮の最初の機会が来たことに満足するものである。責任ある立場の為政者に対し、この機会を逃さないように要請する。この我々の要請は、手に届くところにあるものである。

以上の理由により、都市と人類の福祉を実現するために、我々は、一層の努力を傾注するものである。